

ト

ピ

ア

第56号



2012.12

TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

発行／財団法人徳島県国際交流協会 TEL:088-656-3303



平成24年度

## 中国・四国地区 地域国際化協会連絡協議会・研修会

11月30日に当協会で連絡協議会を開催し、(財)自治体国際化協会、及び中国・四国地区の各地域国際化協会の方々が出席しました。各団体から提出された様々な議題に対しての議論や意見交換を行いました。特に大規模広域災害時における外国人支援に関する議題には各団体から様々な意見が集中し関心の高さを伺うことができました。研修会には(財)仙台市国際交流協会の渡辺芳人様を講師にお迎えし、「東北地方太平洋沖地震」発生時やその後の外国人支援、今後の必要な取り組みについて実体験をもとにお話して頂きました。

災害はいつ起こるかわかりません。私たちが外国人の方たちに対して円滑に支援ができる組織作りをしていかなければならぬと痛感致しました。

## TOPIA事業紹介

### 「あらそわ連」

今年も8月14日に総勢230人（日本人130人・外国人（12カ国・1地域）100人）の大所帯で踊る連になりました。毎年行われております当協会の恒例事業となっております。今年も連の様子などをインターネットで世界中に配信しました。



### 「中高校生夏期英語セミナー」

8月12日から14日に徳島県内の中高校生33人が外国語指導助手（ALT）の先生たちと、四国霊場第7番札所の十楽寺にて交流を深めました。期間中、中高校生たちがALTと様々な活動を通してふれ合うことで国際交流・外国文化について理解を深めることができました。



### 「ホームステイ・ホームビジット」

徳島地域留学生交流推進協議会との共催で、徳島県内の留学生を対象に、10月27、28日に実施しました。3カ国1地域の16人の留学生の方たちが参加し、8組のホストファミリーの方々と有意義な時間を過ごしました。このプログラムは、留学生の皆さんに日本人家庭で過ごして頂き、その体験を通じて、より一層日本への理解を深め、また異文化交流を図って頂くことを目的として毎年、開催しています。



### 「県内在住外国人への防災意識啓発出前講座」

在住外国人の方が災害弱者にならないために、今後起きるかもしれない南海トラフの巨大地震や津波に関する情報、また、それに対する防災知識について出前講座を開催中。わかりやすい日本語・英語・中国語で対応しています。

出前講座を希望される団体は当協会までお問い合わせ下さい！



# 第27回 国民文化祭 世界の踊りフェスティバル とくしま2012 きもち踊る、こころ伸びる

11月23日（金・祝）、アスティとくしまにて「世界の踊りフェスティバル」が第27回国民文化祭徳島県実行委員会により開催されました。メインステージでは、徳島県と縁（ゆかり）のあるスペイン、ドイツ、韓国の舞踏団と阿波踊り連が踊りを披露し、約1900人の来場者が見入りました。また、特設会場では、ドイツ・ニーダーザクセン州少数民族のヒップホップグループによるライブや、徳島の食文化を紹介するブースもにぎわい、県内の自治体の友好交流や民間国際交流団体の活動に関するパネル展示なども大盛況でした。



牟岐町出身の小島章司さんによるフラメンコ



徳島県との友好交流都市、ドイツ・ニーダーザクセン州の「アマーランダー民族舞踊団体」



四国霊場第13番札所・大日寺の住職で韓国人間国宝後継者の金 昂先さんが率いる「金昂先韓国舞踊団」



ドイツ・ニーダーザクセン州のヒップホップグループ「デ・フォフティグ・ベンス」



フィナーレでは阿波踊りを出演者全員（総勢260人）で乱舞



県内の民間国際交流団体の活動パネル展示

# 平成24年度 JICA教師海外研修（教育行政担当者コース）に参加して

財団法人徳島県国際交流協会  
研修員 西林 悅子

**独**

立行政法人国際協力機構（JICA）では、小・中・高等学校の先生方を対象に、途上国での社会・教育事情や様々な協力活動を視察する教師海外研修を毎年実施している。JICA 四国ではこの教師海外研修の中に今年度新たに教育行政担当者コースを設置し、国際理解教育を推進する人材育成を目的に、9月中旬より約 10 日間のネパール研修を実施した。私は幸いにもこの研修に参加する機会を得て、数々の貴重な体験をすることができた。今回はその一部を紹介させていただく。

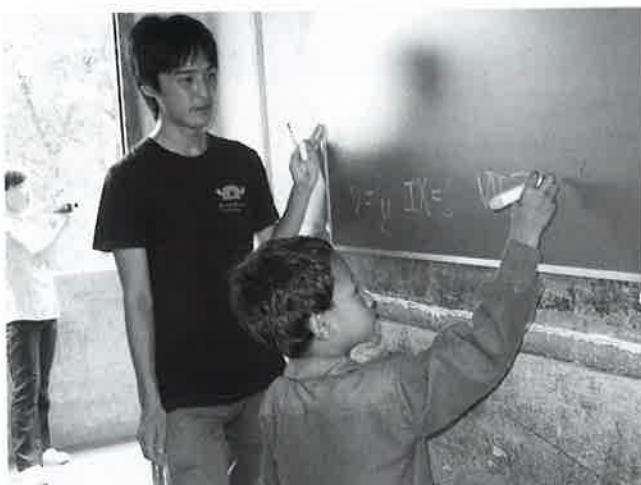
首都カトマンズに到着すると、都会の喧噪感とヒマラヤ山脈に代表される自然の豊かさが入り混じる独特の雰囲気に圧倒された。北は中国、南はインドに囲まれた内陸国ネパール。人口 2662 万人（2011 年）で 60 以上の民族が暮らしている。面積は北海道の約 1.8 倍で、標高 5000 m 以上の高地から亜熱帯の低地まで変化に富んだ地形である。宗教的にはヒンドゥー教と仏教が融合し、みごとな調和を保っている。こうした民族、自然、宗教、文化の多様さがネパールの魅力だ。「ダルバート・タルカリ」はワンプレートの代表的な家庭料理で、ご飯に豆のスープをかけ、おかげと合わせて直接手で食べるが、ヒンドゥー教徒が多い国なので牛肉を使った食べ物はまずない。その他にもさまざまな異文化に触れ、現地の人々と交流しながら多くのことを学ぶことができた。

2 日目、カトマンズから車で約 2 時間、カブレ郡パトレケット村でホームステイを体験した。まず村をあげての熱烈な歓迎を受け、ネパールの人たちの素朴さや優しさに触れ大変感動した。ホームステイ先の小学生の男の子は、流暢に英語を話せた。驚いたことに彼の教科書は全て英語表記で、インフラ整備が不十分な生活環境の中でもグローバル化の波は押し寄せていると感じた。

翌日ダデイン郡のサッチュワティ高等学校を訪問し、青年海外協力隊員の活動を見学した。厳しい教育環境の中、一生懸命学習に取り組む子どもたちの姿に強い印象を受けた。また、すでに JICA ネパール事務所で、ネパールにおけるわが国の ODA 及び JICA 事業の概要、日本政府の対ネパール援助方針について説明は聞いていたが、実際子どもたちと真剣に向き合う若き隊員の強い使命感と奮闘活躍する姿を目の当たりにして、尊敬の念を抱くとともに日本人として大変誇りに思えた。交流としてしっぽ取りゲー



パトレケット村での歓迎会



青年海外協力隊 東隊員



ネパールの日常食ダルバート・タルカリ

ムを教えると、子どもたちは石ころだらけの校庭を平気で裸足で走り回っていた。遊びが大好きで必死に追いかける姿は、日本の子どもたちと同じでとても無邪気に思えた。

しかしながら子どもたちの置かれている教育環境は日本とは違う。NGO「シャプラニール」事務所を訪問して、ネパールの児童労働の実態とシャプラニールの取り組みについてお話を伺った。ネパールでは現在5人に1人が児童労働に従事しており、学校に行けないでいる。特に農村部にその傾向が強く、都市と農村との格差が広がっている。小学校入学率や青年の識字率を比較しても、郡によって格差が大きい。シャプラニールは課題解決に向けて行政機関への働きかけやCMキャンペーンなど、地道に啓発活動を展開している。

私は当協会の「国際理解支援講師派遣事業」を担当しているが、そのねらいである「異文化理解」「多文化共生」「国際協力」の重要性を、今回の海外研修を通して再認識することができた。今後も市町村・教育機関等幅広く県民に、国際交流や国際協力についての理解をより一層深めていきたい。また、現地で支援活動に努力する多くの

日本人との出会いを通して、今までの自分と向き合いこれまでの自分の生き方について考えるきっかけとなった。このような貴重な体験を与えてくださったJICA四国の皆様をはじめ、現地スタッフの方々、同行したメンバー、トピアの方々などすべての人に、心より感謝の気持ちを伝えたい。



ホームステイ先のお母さん



## 「民間連携ボランティア制度をご存じですか?」

昨今、企業の若手社員や管理職の育成のために青年海外協力隊、シニア海外ボランティアへの参加を検討している企業からの問い合わせが増えています。事業の新興国への展開、開発途上国を対象としたビジネスへの関心の高まりなど、企業活動がグローバル化する中、それに対応するためのグローバルな視野や素養を備えた人材の確保も喫緊の課題となっています。JICAではこのようなニーズに応えるよう、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献するプログラム「民間連携ボランティア制度」を創設しました。

各企業のニーズに合わせ、受入れ国や要請内容、職種、派遣期間等をカスタマイズするのが民間連携ボランティア制度です。今後、事業展開を検討している国へ派遣し、活動を通じて、現地語、文化、商習慣、技術レベル、各種ニーズ等を把握したり、ネットワークを作ったりすることができます。

本制度で社員を青年海外協力隊、シニア海外ボランティアとして派遣する場合、以下の条件を満たしている必要があります。

- 【企業】** 株式会社（特例有限会社含）または、持分会社（合同会社、合資会社、合名会社）であること。  
※会社法（平成17年法律第86号）に基づく
- 【参加者】**
  - ・満20歳から満69歳（応募時）
  - ・日本国籍を持つ方
  - ・知識・技術・経験を有する方
  - ・基礎的な英語力 ※ TOEIC330点／英検3級同等以上
  - ・心身ともに健康であること

同制度は、随時募集・選考を行っています。まずは、下記お問い合わせ先にご連絡下さい。  
JICA徳島デスク（TOPIA内）

メール : [jicadpd-desk-tokushima@jica.go.jp](mailto:jicadpd-desk-tokushima@jica.go.jp)

または JICA四国 HPまで <http://www.jica.go.jp/shikoku>

## 地域に根付いたボランティア

# ゴミ減量化とリサイクルショップによる「アジアの子ども達に学校を贈ろう」との結びつき

松茂町まちづくりボランティア「はあとふる松茂」  
会長 仁木 一夫

**ゴ**ミ減量化をボランティア目標の柱に掲げた活動を続けて14年目を迎ますが、奇数月に開催しているリサイクルショップは町の方々や近隣の人にも口伝えに広まり、わが町の催しとして定着の感があります。

リサイクルショップで販売される品物は、家庭から



アルミ缶回収100万個大作戦の活動をする松茂中学校生徒会



2005年8月に寄付したタンソン第一小学校

提供される不用品と松茂小学校・中学校PTAバザーからの残余品で、保管倉庫に収まりきれない程あります。リサイクルショップは、豊富な品数と値段の安さで利用される人から好評を得ており、口コミやケーブルテレビなどの紹介で毎回150～200人位の人で、会場は熱気でムンムンするほど盛況で利用者が徐々に増えています。リサイクルショップの収益金で、2005年8月にメコン川流域にある小さなタンソン村に小学校を寄附したことをきっかけに、2006年7月に松茂中学校生徒会が町内の清掃活動と家庭内ゴミとしてのアルミ缶をリサイクルする「アルミ缶回収100万個大作戦」に取組み始め、収益金を積み立てて、「アジアの子ども達に学校を贈ろう」をスローガンに掲げてボランティア活動をしている私たちのボランティア団体と保育所・幼小中の子ども達が一体となる活動の輪が広がっています。

これまでに小学校の総合的な学習で数回出前授業に招かれ、子ども達に直接ボランティア活動の話しをする機会を得られたことからブルタブとアルミ缶が大量に集まり、子ども達をとおしてベトナム・タンソン村の子ども達に対する教育支援が地域ぐるみに浸透しています。



タンソン第二小学校の授業風景

タンソン村には村立図書館は無く二つある小学校と中学校にはそれぞれ図書室はありますが、教科書が買えない子ども達のために保管してある古い教科書とか資料が殆どで、自主学習ができる本や参考書に類する本は極めて少ない状況です。

タンソン第二小学校に図書館を寄附する申し入れをしたのは、学校図書館を建設することによって、タンソン村の教育環境を良くすることでした。

日本の学校では教材や副読本を使って授業を行うことは通常ですが、学習指導が教科書を暗記させることが中心に行われベトナムの学校ではそういった教育慣習はありません。

都市部の学校はコンクリート建築で窓ガラスがあり、もちろん照明も完備されていますし、図書室には沢山の本が置かれ充実しているものと思われます。タンソン村はホーチミン市から200km位しか離れていないのに校舎の建築様式や学習環境には、日本では考えられない位に格段の差があります。

学校に本格的な図書館ができることによって子ども達の学習環境は大きく変化し、教員の指導方法も多様化され特色ある授業が展開されることが期待できます。

ベトナムでは都市部から数百キロ離れると、屋根は穴だらけで窓ガラスがない薄暗い教室の学校が無数にあります。こうした劣悪な教育環境はベトナムに限らずラオスやカンボジアなどの近隣諸国も同様です。

松茂中学校生徒会の「アルミ缶回収100万個大作戦」の取り組みの収益金で、アジアの子ども達に学校を贈るボランティア活動は大いに賞賛されます。町内の保育所・幼小中の子ども達が一体となって活動する小さなボランティアの積み重ねが大きな成果をもたらしま



2012年8月5日完成したタンソン第二小学校の図書館

す。子ども達がボランティア活動から得た収益で図書館を建設するという目標が2012年8月に達成しました。全国的に例のない子ども達のボランティア活動を支援し、共に達成の喜びを共有しています。

図書館の完成でタンソン村の子ども達の教育環境が大きく改善されたことを機会に、今後の学校建設を計画する参考にするため、ホーチミン市の北東部に位置するドンナイ省にある少数民族の子ども達が通っているマダー村の学校施設の聞き取り調査を始めています。タンソン村やマナー村に限らず、都市部から離れた地域では学校建設が必要なところがいたるところにあります。また、学校建設だけでなく、学用品の文具や楽器類を集めて子ども達に贈ることも行っています。

「はあとふる松茂」は20名足らずの小さなボランティア団体ですが、支援してくださる方の輪が着実に広がっていますが、活動しているメンバーの高齢化が進みつつある実情を抱えていますので、20代～50代の現役世代の参加をお待ちしています。ご自分の余暇時間を活用し、ゴミ減量化によるリサイクルショップをとおした「アジアの子ども達に学校を贈ろう」のボランティア活動の輪に加わってください。

会員を募っています。「はあとふる松茂」事務局までお問い合わせ頂ければ幸いです。

事務局 090-4785-9118 森 一美



新しい図書館に納められる松茂中学校生徒会から贈られた図書1300冊

ご登録ください！

## 地域共生センター 災害時通訳ボランティア

地域共生センターとは、県内在住外国人の皆さんが国籍に関係なく自立し、いきいきと活躍できるように地域社会において様々な支援を行っていただくボランティアです。言語や制度、慣習の違いから生じる日常生活や労働面での問題を行政機関や民間団体と一緒にになって地域で解決できるように活動していただきたためのものです。

内閣府が南海トラフの巨大地震による最大クラスの被害想定等を公表し、徳島県でもその危険性が益々深刻なものになっています。災害時通訳ボランティアとは、そのような災害時に、ボランティアセンターの指定する避難所（体育館など）で、避難所スタッフの伝達事項を、在県外国籍住民等に通訳していただくボランティアです。ぜひご登録ください！

\*なお、徳島県が委嘱し、当協会でボランティア保険に加入いたします。

## 英語・中国語 多言語電話相談（窓口案内）員

県内在住外国人および旅行等で来県する外国人の方へ、さらにきめ細かく生活相談や観光案内をすることができるよう、英語・中国語対応の多言語電話相談（窓口案内）員を配置しております。

電話での相談の際に通訳が必要な場合には3者通話（トリオフォン）もございます。是非、ご活用ください。

英語担当：池上　　中国語担当：藤原

受付時間：毎日 10:00～18:00

TEL：088-656-3320（相談電話）

全ての依頼に応えられない場合もあります。ご了承ください。

## TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受け取ることができます。

年会費　個人会員　一口3,000円／年度

団体会員　一口5,000円／年度

詳細は当協会まで。資料をお送りします。

## 国際理解教育を応援します

### 国際理解支援講師派遣

楽しく、愉快に多文化交流 & 異文化理解！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流事業などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

### 国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として母国の文化紹介などをしてくださいとする県内在住外国人の方を募集しています。

## 多文化共生 DVD の貸出

多文化共生の理解促進のために、県内在住外国人等の現状や、多文化共生の理念などを紹介するDVDを貸し出しております。学校等では是非ご活用ください。

なおYOUTUBEの徳島チャンネルにも掲載しておりますので是非ご覧ください。

<http://www.youtube.com/user/tokushimakouhou/>

## 編集後記

早いもので今年のカレンダーも、残すところ後数日となりました。12月は「師走」と言うだけに、あっという間に過ぎてしまったような気がします。第27回国民文化祭も無事に幕を閉じ、通常の徳島に戻り、少し寂しさを感じています。

これから寒さが厳しくなってきますが、皆様、お風邪などを召さないように、ご自愛くださいませ。新しい年も皆様にとって、すばらしい年になりますように。

このページ問い合わせ：財団法人徳島県国際交流協会

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61

クレメントプラザ6F

Tel : 088-656-3303 Fax : 088-652-0616

URL : <http://www.topia.ne.jp>

Email : [topia@topia.ne.jp](mailto:topia@topia.ne.jp)

識字で築く 豊かな県土 明るい未来